

「つなぐ」という言葉を大切にしたいと皆さんに伝えました。では、具体的に「何をつなぐ」ことを大切にしたいのか。それを、ここで皆さんに示したいと思います。

本校の伝統をつなぐ

今年、高取国際高校は前身の高取高校も含めると38歳を迎えます。皆さんの周りにおられる38歳の方を想像してみるとわかるように、様々な経験をされた、幼少期や老年期とは異なる「大人」がそこにいるのではないのでしょうか。

私たちが集うこの学び舎は「大人」になるまでに沢山の思いを積み重ねてこられました。うぐいす坂の挨拶や、残念ながらコロナ禍により今は出来ない体育大会後の校歌合唱等、先輩たちが築いてこられた誇るべき伝統は、心に留め置かなければ消えてしまうことが時としてあります。本校を訪れる方や地域の方々から愛され続ける学校であるよう、是非次代に「つないで」欲しいと思います。

昨日・今日・明日をつなぐ

これを読んでいる《現在》は一瞬で《過去》になり、今夜の夕飯を想像する《未来》は、間違いなく《今》の延長線上にあります。至極当たり前のことですが、私はよく忘れてしまいます。《今日（あるいは今）》を大切にすることが、誇れる《昨日》やキラキラした《未来》に「つながる」のは疑う余地はありません。

新入生にはまだ紹介していませんが、2、3年生には始業式で紹介した相田みつをさんの詩『我が子へ』を是非読んでみてください。ちなみに、《今》を大切にしたいと思える詩です。

人と人をつなぐ

ソーシャル・ディスタンスやリモートワーク、そしてオンライン学習という言葉が飛び交う今は、空間的距離をとることが推奨されています。そのようなコロナ禍だからこそ、特に気をつけたいことがあります。それは、距離的にたとえ遠く離れていても、心を「つなぐ」ことを忘れないようにすること。

昨年、しばらく続いた在宅学習期間後に再開した時の級友との会話や、少し前の学校では当たり前であった対面授業の有り難さは、時間とともにどこかへおいてしまいがちです。人と人が「つながる」ことの大切さに改めて気付かされたことを、心に留め置きたいと思います。

さて、点（一瞬）はつながるもしくは動く線（経験）になります。私たちが生きるその時々を大切に送ることこそが、何よりも上で述べたような、伝統や時間、そして人と人を「つなぐ・つながる・つなげる」ことだと思いたいますが、いかがですか。本校での様々な学びが、皆さんの日常を豊かにするよう心がけていきたいと思います。